

## 会議録（要点記録）

<b>令和7・8年度 堺市南区政策会議 第4回全体会</b>	
開催日時	令和8年3月3日（火） 17時30分～19時00分
開催場所	南区役所4階 保健指導室1・2
出席 構成員	大島 知子（堺市南区校区福祉委員会 会長） 岸本 啓司（堺市南区自治連合協議会 会長） 木谷 利治（堺市南区民生委員児童委員協議会 会長） 宮岡 愛子（公募） 近藤 誠司（関西大学社会安全学部 教授） 谷口 拓峰（幼保連携型認定こども園 竹城台東保育園 園長） 芳賀 敬子（堺市立茶山台小学校） 三戸口 聖子（堺市立原山台中学校 校長） 井手 夏樹（南海電気鉄道株式会社 まちづくり推進室 泉北事業部 課長） 鈴木 京子（国際障害者交流センタービッグ・アイ 副館長）
事務局 （市職員）	南区役所 中山区長、阿加井副区長、松本副区長 企画総務課長、企画総務課 課長補佐、 スマート区役所担当課長、自治推進課長、市民課長、保険年金課長、 生活援護課長、地域福祉課長、子育て支援課長、南保健センター所長 泉北ニューデザイン推進室 企画推進担当課長、事業推進担当課長
議題	(1) 堺市南区基本計画（案）について (2) 3つの方向性評価シートについて (3) 未来共創若者部会について (4) 防災の取組について (5) その他

<p>配付資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第 ・配席図</li> <li>・資料 1 堺市南区基本計画（案）についてのご意見の要旨と本市の考え方</li> <li>・資料 2 堺市南区基本計画（案）概要版</li> <li>・資料 3 堺市南区基本計画（案）</li> <li>・資料 4-1 堺市南区政策会議 3つの方向性 評価シート（南区独自の防災力向上モデル）</li> <li>・資料 4-2 堺市南区政策会議 3つの方向性 評価シート（子育て・教育、健康長寿）</li> <li>・資料 4-3 堺市南区政策会議 3つの方向性 評価シート（南区ブランド戦略）</li> <li>・資料 5-1 第 1 回未来共創若者部会 意見要旨</li> <li>・資料 5-2 第 1 回未来共創若者部会 議論テーマ</li> <li>・資料 6-1 つながりあいコール</li> <li>・資料 6-2 南区駅前滞留者対応マニュアル【概要版】</li> <li>・資料 6-3 南区駅前滞留者対応マニュアル【本編】</li> </ul>
-------------	--

審議状況

開会（17時30分）

## 1 開会

企画総務課長

本日の案件は多岐にわたる内容となっているため、議題1と2を併せてご説明し、その後に皆さまのご意見を頂戴したいと考えております。

続いて、議題3と4についても同様に説明を行い、ご意見を頂戴したいと考えております。

## 2 議題（1）堺市南区基本計画（案）について

### 3 議題（2）3つの方向性評価シートについて

企画総務課長

<資料1、2、3について説明>

前回（10月15日）の会議後、令和7年12月22日から令和8年1月21日まで計画案に対する意見募集を実施し、22人から計31項目のご意見をいただきました。資料1に意見要旨と本市の考え方を整理しています。

ご意見を踏まえ、計画の方向性そのものに変更はありませんが、修正点として、資料3の計画の位置づけの図において西暦と和暦を併記する形に改めたほか、統計情報の最新化、概要版の図表の表記修正を行っています。これらを反映した案を「最終案」として取りまとめ、策定を進めてまいります。

今後のスケジュールとして、意見募集の結果は3月4日からホームページで公表し、堺市南区基本計画は市の内部手続きを経て3月中の策定を予定しております。

本日は、本計画の目標達成に向け、どのような取組が必要かについて皆さまからご意見を頂戴できればと考えております。

自治推進課長

<資料4-1について説明>

続いて、3つの方向性評価シートの説明をいたします。1点目、自主防災組織実務者連絡会です。令和7年度は、7月と1月に連絡会を開催し、自治連合協議会に加盟していない校区も含め、南区内全20校区の自主防災組織の実務者が参加され、達成率は100%となっています。避難行動要支援者対策や地震時の指定避難所である中学校の活用について意見交換をしています。連絡会に参加された防災担当者が近隣小学校区の防災訓練の見学に行くなど小学校区の枠組みを超えた関係性の構築にも寄与しています。

続いて2点目、小学生防災リーダー養成講座についてです。防災の基礎知識を学ぶ防災

オリエンテーションの実施と災害による避難時の疑似体験を行う防災デイキャンプを昨年度に続き実施しました。これまでの参加者は延べ約 184 名で、目標値を大きく上回る結果となっております。

参加者へのアンケートでは、校区の防災訓練に参加したいと回答した割合が 75%となっており、防災意識の醸成に寄与できたと考えています。また、小学生防災リーダー養成講座が起点となり波及した小中学校での防災授業は学校群での合同事業も含めて、2 月末時点で 12 小学校と 4 中学校で実施しており、約 1,500 名以上の方が受講されたとなっております。こういったことで、学校教育においても防災意識の広がりを大いに感じる結果となりました。

続いて 3 点目、防災士養成プログラムです。本事業により防災資格を取得した方を対象に、資格取得後の防災リーダーとして地域防災に関わっていただくことが重要であると考え、研修や校区自主防災活動への参加を促し、参加状況の確認など効果検証を行うこととしております。今年度 2 月末時点での校区の自主防災訓練には 95%の方が参加しておりまして、3 月にまだ防災訓練を予定している校区もあることから、更に目標値を上回ることが予想され、地域防災の新たな担い手育成の成果があったといえます。

これらの 3 つの事業は、防災意識の向上や共助の重要性を認識していただくことが目的であり、特に小学生防災リーダー養成講座においては、防災事業を実施する小中学校が増えたことにより、防災意識向上の裾野が広がり、より効率的に啓発活動ができたものと考えております。

次年度は、更に小中学生やその保護者に自助共助の重要性を広く啓発していくためにも効率的なよりよい手法を検討し注力していきます。

また、自主防災組織実務者連絡会においては、校区同士が意見交換することで地区防災計画の策定が進んだことや、防災訓練の情報共有、中学校区内での交流の輪ができるなど、小学校区の垣根を越えた連携も期待できるものとなっております。今後も自治会への加入、未加入にかかわらず、引き続き自助共助の重要性を啓発し、共助の輪を広げ、誰ひとり取り残さない安全安心な未来を共創してまいります。

#### 南保健センター所長

##### <資料 4-2 について説明>

続いて、健康長寿に関する評価シートについて説明いたします。

堺市包括連携協定企業と連携し、ヘルスケア情報の発信や生活習慣病等の個別相談を行う「みなみ健活キャラバン」を実施しました。みどりのつどいや帝塚山学院大学の大学祭、さらに先日の日曜日に開催されたみなみ緑道ウォーキングなど、多くの世代が集まる場に出向いて実施したところです。

特に大学祭では、若い世代に生活習慣病予防の啓発を行う貴重な機会となり、18 歳以

上 64 歳以下の相談割合および健康相談件数のいずれにおいても、目標値を大きく上回る結果となりました。

#### 子育て支援課長

続いて、子育て支援事業に関する評価指標についてご説明いたします。

まず、「生き抜く力を育てるワークショップ事業」は、目標値 15 件に対し 19 件の実績となり、目標を大きく上回りました。子どもたちが自ら未来を切り開くために不可欠な自尊感情を育む講座を、昨年度より多くの小中学校で実施することができた点が大きな成果です。

次に、「セカンドステップ事業」です。目標値 10 園に対し、実績は 7 園と昨年度の 8 園からは減少しております。ただし、昨年度実施した二つの園では、園の保育士がプログラム実施の資格を取得し、園独自で取組を継続されています。区内こども園で自主的な実施が広がっている点は、大きな成果と考えています。

続いて、「南区民のウェルビーイングにつながる子育て・健康長寿に係るプロジェクト・事業・サービス等の数」です。新たに 4 事業を追加し、合計 164 事業を登録しました。この事業一覧は昨年度から堺市ホームページで公開しており、今年度も内容を更新しながら継続して情報発信を行っています。

最後に、特定健康診査受診率です。がん検診の無償化とあわせて啓発を継続しており、数値は年々向上しているものの、現時点では目標値に達していません。今後も、SNS の活用、医療機関訪問、学校との連携など、あらゆる機会を活かして引き続き啓発に取り組んでまいります。これら各事業の評価指標の達成に向け、最終的な目標である「人が生き生きと輝き、幸せで、心身ともに健やかに暮らせるまち」の実現につなげられるよう、これからも個々に寄り添ったサービスの提供に努めてまいります。

以上です。

#### 企画総務課長

<資料 4-3 について説明>

南区ブランド戦略についてご説明します。全体的な評価としては、自然体験プログラムを実施する園数が増加するなど、ブランド価値を体験として実感できる取組が順調に進んでいます。大学、農家、保育施設など、多様な主体との連携も進み、地域のみどりを生かした共創の取組が育ってきています。

一方で、専用ホームページの閲覧数は前年度から減少しており、情報発信の強化が今後の課題と捉えています。また、ロゴマークの認知度は目標値を維持しているものの、前年からの伸びは見られず、やや停滞傾向にあります。

指標の達成状況は、ロゴマーク認知度が 21%となり、目標は上回りました。自然体験プロ

グラムによるこどもの興味・関心の変化は現在集計中であり、後日報告いたします。また、民間でのロゴ活用団体は6団体、専用ホームページの掲載項目数は17項目と、いずれも目標を達成しています。

事業別の取組としては、ロゴマーク活用では広報誌特集やホームページ掲載などを通じて浸透を図りました。自然体験プログラムでは、対象園を広げ、移動支援や内容の充実を進めています。専用ホームページについても、動画掲載やアンケート結果の公開など、内容の拡充を行ってきました。

総じて、ブランド価値の体験・実感の向上、民間との協働による広がりなど、全体として取組は着実に進展しています。一方で、伸びが鈍化しているロゴマーク認知度の向上や、ホームページ閲覧数の改善に向けた発信の強化が、引き続き必要であると考えています。

#### 近藤座長

資料1から4までご説明いただきました。まずは皆さまから所感や、今後どのような取組につなげていくとよいかといったご意見を頂戴したいと考えております。何かお気づきの点や、ひらめきがありましたら、お聞かせいただければと思います。

#### 谷口構成員

先日のみなみ緑道ウォーキングに参加しましたが、公園のトイレで気になる点がありました。トイレ自体は設置されていますが、いずれもトイレトイレットペーパーが補充されておらず、こどもが利用できず困る場面がありました。最低限の設備として、トイレトイレットペーパーの確保は必要だと感じました。

また、緑を大切にしている取組が各所で進められており、私自身も今後こうした活動に積極的に参加したいと考えています。

#### 近藤座長

南区にとって「みどり」は非常に重要な要素であり、地域の皆さんが良い思い出を持てる環境を維持していくことが大切だと考えています。一方、区民意見を拝見すると、「雑草を何とかしてほしい」など、行政による対応を求める声が多く寄せられているようにも受け取れました。

そこでお伺いしたいのですが、雑草の除去や緑地の整備を、住民の皆さんと一緒に行うような取組やイベントは、現在実施されているのでしょうか。

#### 企画総務課長

把握する限りではないかと思えます。

#### 近藤座長

緑に触れ合うという点までは非常に良い流れだと感じていますが、そこに加えて、地域の皆さんとともに緑を管理し、育てていくような取組の中に、「M&GREENs」のロゴが自然にPRされていく関係性をつくることも重要ではないかと考えています。

全部を行政が担ってくれるという期待だけが高まってしまうと、対応が行き届かない部分が生じた際に、批判や不満が集まるという悪循環に陥る可能性があります。そうした状況を避けるためにも、行政と住民が協働で緑を支える仕組みや関わりを育てていく視点が必要だと感じました。

#### 宮岡構成員

資料1を拝見し、南区の皆さんが丁寧に地域課題と向き合っておられることを感じました。一方で、その丁寧さや方向性が、実際に地域で生活する住民には十分に伝わっていない部分もあるのではないかと考えています。

その要因として、経済的な貧困世帯は減少しているものの、社会的な貧困が生じている点があります。たとえば、「みみちゃんルームを利用したいが駐車場代が負担になる」「40歳以上の健康診断を受けたいが、会場へ行くまでが大変」といった声があり、公共料金や近隣のコインパーキング代、こども食堂の利用環境など、様々な社会的要因が利用の妨げになっている現状が見受けられます。こうした社会的貧困は、今後さらに地域課題として顕在化していくのではないかと感じています。

また、防災について「加入・未加入にとらわれず」という言葉は非常に心強いものでした。自治会長として、加入・未加入への対応や、人口減少・高齢化に伴う担い手不足に日々悩んでいることから、南区がこの課題に向き合い、具体的な取組を進めようとしている点に大きな期待を抱いています。

さらに、行政の丁寧な取組があっても、大人自身が主体的に関わらなければ十分な成果につながらないと感じています。地域の課題を自分事として受け止め、行動につなげる姿勢が求められます。現在の学習指導要領の論点整理では「多様性の包摂」が示されており、これは小学校から積み上げていくべき重要な視点です。南区が掲げる多様性の方向性についても、私たちが自らの課題として受け止め、行動していきたいと考えています。

#### 近藤座長

今のご意見から、社会的貧困や社会的孤立といった重要なキーワードが多く示されており、これらをどのように把握し、見える形にしていくかが今後の課題であると改めて感じました。また、取組の成果が現場に十分伝わっていないというご指摘も大切な観点で、広報やPRの重要性は今後さらに高まっていくだろうと考えています。

自治会の加入・未加入に関する課題は、資料 1 の 23 番目で扱われており、新しい共助の形が注目され始めていることがうかがえます。しかし、自治会の新たな加入者がなかなか増えない現状の中で、安全・安心を取りこぼさないようにするための取組をどのように促していくかは、引き続き大きな課題です。

#### 岸本構成員

自治会への加入・未加入にかかわらず、全員を避難所へ受け入れるということは、現実には非常に難しい面があります。避難所運営には支援体制や補助金の問題が伴いますが、だからといって「自治会に入っていないから受け入れられない」という対応はできません。いざという時には、加入・未加入を問わず、何らかの対応を行う必要があります。

ただし、自治会はあくまで自治会という単位で加入いただいている組織であり、その中にも加入されている方と加入されていない方がいます。加入されていない方については、どの世帯が該当するのか、正確には把握できていないのが実情です。したがって、大災害時には一律に小学校へ来ていただければ受付は行いますが、物資の配分などでは、加入されていない方との対応の差が生じる可能性があります。本来はそのようなことが起きてはならないのですが、現場運営としては悩ましい点です。

私としては、避難所に来られた方は全員受付をし、可能な限り対応する考えですが、地域として同じ考え方を共有していただかなければ、難しい面があるとも感じます。堺市全体で自治会加入率は約 5 割と伺っており、半数が加入していない現状では、すべての住民を対象に同じ水準で支援を行うことは、現実的には難しい面があると思っています。

この状況を踏まえると、何らかの機会を通じて「自治会に加入することの意義」を住民の皆さんに丁寧に伝えていく必要があると感じます。

#### 近藤座長

自治会加入・未加入の問題は、他の地域でも議論が深まっており、加入率が 3 割を下回る地域や、自治会に加入している側が少数派となっている地域も増えてきています。そうした状況だからこそ、自治会に加入する意味や意義を丁寧に伝えていくことが重要で、促進の方法については、もう一段ギアを上げて取り組む必要があると感じました。防災を一丸となって進めていく上では自治会の仕組みを活かすことが有効です。

しかし、資料 6-1 にある「災害時の安否確認を自主防災組織や自治会を活用して行う」という趣旨が、住民の方々に十分伝わっていない面もあります。

本来、地域は運命共同体として支え合わざるを得ない状況に来ており、そうした現実をしっかりと示していくことが求められていると感じました。

木谷構成員

全体的には、将来像を示す3つの柱に沿って様々な取組が進められており、一定の成果が数値として表れている点は評価できていると感じています。

しかし、こどもの数が減少している地域が多く、私の住む地域でも同様の状況です。転入・転出の動きや住環境の変化を踏まえると、少なくとも現状維持につなげるための住宅施策が必要ではないかと感じます。

実際、住宅が「ニコイチ」に建て替えられるなど、住宅のあり方そのものは変化していますが、UR住宅など大規模住宅地については、人の流入が進まず、人口が増えない要因の一つになっているように思います。こうした住宅地の課題に対して、関係機関との連携をより強め、地域の魅力が発揮されるような取組を進めていただければと感じています。

近藤座長

住民の皆さんの意見の中にも空き室の問題が挙げられていましたが、お話にあったUR住宅の空き住戸について、利活用の取組は進んでいるのでしょうか。

木谷構成員

府営住宅では長期間空いたままの住戸が相当数あります。入居募集の認可戸数も半数近くまで減っている状況です。すべての地域が同じとは思いませんが、こうした空き家の増加が、こども園に入所する児童や園児が非常に少なくなっている状況にもつながっていると感じています。

近藤座長

少子化の問題はどの地域でも共通で、空室が増えた団地を再活性化する動きとして、喫茶店の開設やこどもの居場所づくりなど、全国で様々な事例がニュースにも取り上げられています。こうした流れを踏まえると、南区においても前向きな情報を発信することで、人を呼び込める可能性は十分にあると感じています。

まずは一つでも二つでも実践的な取組を行い、成果が得られた事例を積極的にPRしていくことが重要だと考えました。

大島構成員

桃山台、あるいは茶山台のUR住宅では、同様の取組が行われており、うまく機能していると伺っています。コミュニティスペースも常に利用があり、活発に活用されている印象があります。

近藤座長

こうした取組を増やしていけると良いですね。具体的には、サロンのような場を設けているのでしょうか。喫茶店や交流スペースといった形で運営されているのか、お伺いしたいと思います。

自治推進課長

「ももポート」というコミュニティスペースを設けるなど、団地内に住民が集える場をつくる取組が進められています。また、いわゆる「ニコイチ」で、二つの住戸をリノベーションして活用する事例もあります。

そのほか、空き住戸を活用して子どもや高齢者の居場所づくりを行うなど、様々な用途への転用が進められているところもあります。また、府営住宅については「集約化事業」により、住戸を段階的に集約し、空いた区画を建て替えるなどの計画が大阪府で進められています。

ただし、予算の制約もあり、一度に大きく進むわけではなく、徐々に取組が進んでいるのが現状です。

近藤座長

一つの空間が、二つにも三つにも効用を持つような使い方ができると良いと感じています。例えば、リノベーションしたスペースで、子どもが防災リーダーとして災害対応を学ぶ場として活用したり、子ども食堂として地域の子どもたちが安心して集まれる場にしたりと、南区が取り組みたいテーマが自然に集積される空間ができれば、発信もしやすくなると思います。

こうした、多機能であたたかい交流の場所が増えていくことは、地域にとっても大きな力になりますし、そのような環境が今後ますます求められていくのではないかと感じています。

大島構成員

M&GREENsの周知に取り組んでいただいておりますが、まだ十分に浸透していないと感じています。先日のみなみ緑道ウォーキングで配布されていたシールは、子どもたちは喜んでいましたが、高齢の参加者にはあまり受け入れられず、受け取りに行かなかった方もおられたようです。ボールペンなど日常的に使えるものが配布されていれば、より多くの方に知っていただく機会になったのではないかと感じました。

こうした場での広報効果を高めるためにも、一定の予算を確保し、配布物についても工夫いただければと思います。

また、「南区はみどりが良い」と言われる一方で、実際に住んでいると身近過ぎて、どこを指しているのか分かりにくいという声もあります。先日紹介された動画でも四季折々の美しい風景が取り上げられていましたが、実際には多くの方が現地を訪れる機会がないまま、「良いところらしい」という印象にとどまっているように感じます。

「流鏝馬（やぶさめ）」や「こおどり」といった地域の特色ある催しも含めて、南区の魅力を写真や動画で記録して発信することが必要ではないかと思っています。私自身も、この一年間、季節ごとに区内の魅力的な場所を撮影し、記録してみたいと考えています。皆さんも、もしよろしければぜひ一緒に現地を訪れていただき、南区の良さを改めて知っていただければと思っています。

#### 近藤座長

若者部会でも、動画での発信を望む声が多く挙がっていました。特に、ショートムービーの形式が良いという意見や、南区のおすすめスポットを一つだけ紹介するのではなく、「ベスト5」といったランキング形式でまとめ、短く編集して発信するとTikTokでも拡散されやすいといった助言も若者からいただいています。こうした視点を取り入れながら、南区の魅力を効果的に発信する方法を考えていければと思います。

#### 大島構成員

孫が会社へ提出する動画を作成することになり、出来たものを見せてもらったところ非常に面白い内容で、よくここまで工夫できるものだと感心しました。今の若い世代は様々な表現方法やテクニックをよく知っているのだと改めて感じました。

そうした若い人たちの感性や技術を活かすためにも、大学生や高校生の皆さんにも協力してもらいながら動画を制作すると、より魅力的なものになるのではないかと考えています。

#### 近藤座長

ブランドに関する項目はホームページの閲覧増加率を指標として設定されていますが、現状では満点に届かず、伸び悩んでいる状況がうかがえます。

今後、ウェブサイトで重点的に取り組むのか、SNSでの発信を強化するのか、あるいは両者の相乗効果を狙うのか、工夫が求められると感じます。

実は私自身、「専用ホームページとは何か」というところから確認しておりました。構成員の反応を見ても、認知が十分ではないのではないかと印象を受けています。

そうした意味でも、専用ページが存在をより広く知っていただく努力が必要ですし、独立したページとして分かりやすく整理した方が、アクセスしやすく、動きやすくなるのではないかと考えています。ただし、堺市全体との関係などの制約もあると思いますので、その点は工夫が必要だと感じました。

#### 鈴木構成員

ホームページの活用について申し上げます。私自身の実感としても、InstagramやX（旧

Twitter) といった SNS のほうが、圧倒的に伸び率が高いと感じています。SNS で情報を広げていくためには、常に更新を続けることが重要で、投稿が流れていく特性や、ストーリーズが 24 時間で消えるという仕組みを逆に活かし、まずは“入り口”として興味を持ってもらう。そのうえで、より詳しい内容を知りたい方がホームページにアクセスするという流れが自然ではないかと感じています。

今の 30 代や 40 代前半の世代も、情報収集は SNS 中心になっており、私自身もホームページを直接見ることは少なく、SNS から情報を得ることが多くなっています。TikTok でも「ベスト 5」形式の動画がとて多く、例えば「大阪の住みたいまちベスト 5」や「好きな食べ物ランキング」など、短くテンポよく見られる形式がよく流れています。まずはそこで興味を引き、その後、ホームページへ誘導するという広報戦略が、今の時代には合っているのではないかと感じました。

また、障害当事者の意見を聞いてほしいという声が資料 1 の 27 番に挙がっています。

計画の中にも多様性の尊重は示されていますが、実際に障害のある方がどのように関わっているのか、計画全体からは見えにくい部分があるように思います。障害のある方にとっては、意見を述べる機会そのものが少なく、こちらから積極的にアプローチしない限り、参加のきっかけが生まれにくいという現状もあります。「意見を言っているのだろうか」と心理的な負担を感じておられる方も多いと思います。

子どもや学生の意見交換が行われているように、将来的には障害のある方の意見を丁寧に集約できる場を設けることで、当事者にしか見えない課題やニーズを拾い上げられるのではないかと考えていますので、ぜひそのような機会をつくっていただきたいと思います。

#### 近藤座長

ある震災の被災地で、自治体が災害対策本部において幅広く意見を聞く場を設けた際、障害当事者の方々にも参加していただいたことがありました。その場では、主に身体に障害のある方が意見を述べられていましたが、精神障害や知的発達障害のある方々は、「自分たちの意見は聞いてもらえないかもしれない」と感じておられたようで、一步引いてしまい、ほとんど発言されないという状況がありました。

こうした経験から、障害のある方々の中にも多様な当事者性が存在し、そこに丁寧に寄り添い、すくい上げる仕組みが必要であると強く感じています。多様性を尊重するという理念を具体的に実現していくためには、それぞれの当事者が安心して意見を述べられる枠組みをつくるのが欠かせないと改めて思いました。

#### 井出構成員

基本計画 8 ページに記載されている KPI には、一通り設定が示されています。ただ、ここか

ら先は「誰が・どのように・いつまでに」という部分をもう少し具体的にブレイクダウンし、進捗を丁寧に管理しながら進めていくことが重要ではないかと感じています。ありきたりではありますが、その運用の精度が成果に直結する部分だと思います。

また、ブランド戦略に関して、先ほども話題になった「認知度」の向上は大きな課題だと考えています。直接的な KPI として設定されているわけではありませんが、どうやって多くの人に知ってもらおうかという視点は、計画を推進していくうえで避けて通れない点です。

南海電鉄としては、移住・定住促進の取組を多部署で様々に実施しており、「なんかいらし」という沿線自治体の暮らしを紹介するウェブサイトの運用や、Instagram の活用なども行っています。また、堺市と共同で企画した「まちの参観日」では、オンライン・リアルの双方で堺や泉北の暮らしを体感していただくなど、外部と連携しながら情報発信を続けています。

こうした取組を通じて感じるのは、自前で発信するだけでなく、外部の力をうまく巻き込みながら、マーケティングの視点を持って進めていくことが必要だということです。地域の魅力を本気で広げていこうと考えるのであれば、多様な主体との協力関係を築きながら、効果的な広報戦略を組み立てていくことが求められると考えています。

以上です。

#### 近藤座長

KPI の設定そのものも、その妥当性や測定方法も、厳しく検討していく段階に来ているのではないかと思います。今日は評価指標そのものを議論する場ではありませんので、どの指標が良いかという具体的な提案までは申し上げませんが、例えば防災に関する資料 4-1 では、「小学生防災リーダーの養成者数」という定量指標に加えて、その中で「訓練に参加したいと答えた人の割合」も設定されており、二段構えの評価になっています。また、防災士についても「合格者数」だけでなく、「そのうち訓練に参加した人数」といった別の視点で見ること考えられます。

このように、複数の角度から見ることで進捗が分かりやすくなるのか、それとももっと広く捉えた指標に変更したほうが適切なのかなど、多面的な検討が必要ではないかと感じました。

#### 三戸口構成員

私もホームページの活用は以前から気になっていました。評価項目を見ると、多くの項目で非常に良い数値が示されており、その点は素晴らしいと感じています。しかし、発信方法はこれまで「ホームページで掲載します」という報告が多かった印象が強く残っています。

学校現場でも同じ課題を抱えていて、私自身、校長としてホームページの閲覧数を毎日確認していますが、7、8年前に比べると、閲覧数の伸びは鈍化しています。学校としても、メール配信やその他の情報手段を増やしていますが、それらがどれほど効果を上げているのか、

現場でも悩んでいるところです。

せっかくこれだけ良い数値が出ているにもかかわらず、肝心の「区民が知らないまま終わってしまう」という状況は非常にもったいなく感じています。若い世代の意見を見ても、Instagramの存在が非常に大きく、今回の選挙でもSNS戦略が大きな影響を持っていたと感じています。子育て世代、特に30代40代の方々は、InstagramやX、TikTokを日常的に利用しており、「ホームページ」と言われると、関心が薄い印象があります。

どのようにSNSを活用し、特に子育て世代に区政への関心を持ってもらうかが、南区を元気にする重要なポイントになると感じます。高齢者への安心の提供はもちろん必要ですが、将来の地域を支える世代にどう関わってもらうかという視点も欠かせないと思います。

もう一点、防災教育についてです。今年は自治会長さんや自治推進課の職員の方に学校へ来ていただき、一緒に取組を進めました。自治会長さんから、自治会未加入の世帯が多いという話を伺った際、子どもたちは非常に真剣に聞いていて、「家に帰って聞いてみよう」といった声も上がっていました。教室でもその話題が取り上げられるほど関心を持っており、子どもたちを通して自治会加入につなげるきっかけを作ることも可能ではないかと感じています。

こうした視点も踏まえて、自治会加入促進についても検討の余地があるのではないかと思います。以上です。

#### 近藤座長

ホームページやSNSに関する話題が続きましたので、基本計画のウェブ公開の現状について事務局から共有いただきたいと思います。基本計画はウェブ上で公開されるのですが、どのような仕様になるのか、そのあたりを確認しておきたいと考えています。

#### 企画総務課長

基本的には、計画資料は現在の形式のままウェブ上に掲載する予定です。ただし、スマートフォンから閲覧される方も多いため、見やすさを確保できるよう掲載方法の工夫が必要だと考えています。

#### 近藤座長

視覚に障害のある方であれば、今回の計画資料が音声読み上げソフトに対応しているかどうかは大切なポイントになります。今後、ウェブ掲載の際には、こうしたアクセシビリティの視点も加味していく必要があると思います。

せっかく良い計画ができあがっていますので、その内容を広く知っていただけるよう、PRや周知の手法についても工夫を重ねていくことが望ましいと考えています。

## 芳賀構成員

私は茶山台小学校から参加しておりますが、本校の児童の約 9 割は茶山台団地に居住しています。団地の中で育つ子どもたちであり、日頃から住民の皆さんに多くお世話になっています。例えば、通学路にあるお地藏さんの前で 1 年生が泣いているのを住民の方が見つけて学校に連絡をくださったり、団地入口の階段付近で座り込んで動けなくなっていた児童を学校まで連れてきてくださったりと、地域の見守りの力に支えられて学校運営が成り立っていることを日々実感しています。

団地の空き住戸の活用についても話題がありましたが、茶山台でも子ども食堂や、かつて集会所だった場所を活用して図書館として運営するなど、住民主体の取組が活発です。住民の方が寄付した本が並び、読み聞かせや貸出しを行ってくださっているなど、地域のあたたかさを感じられる場となっています。

また、DIY や家庭菜園で収穫した野菜を「山分けキッチン」で共有するなど、多世代の交流も盛んに行われており、茶山台団地の大きな魅力になっています。こうした取組は、コンパクトな校区ならではの良さでもあると感じています。

一方で、小学校としては単学級であることから、6 年間同じ人間関係のまま過ごすという特有の難しさもあります。そのため、若松台小学校を含む 3 校で「学校群」という取組を行い、同学年同士が交流できる仕組みをつくっています。5 年生が臨海学校を 3 校合同で実施したり、バスを 2 台借りて学級外活動を経済的に工夫しながら実施したりと、管理職も含めて新しい試みを続けています。

自治会の話題にもありましたが、PTA も同じ課題を抱えています。「加入します／しません」を明確に意思表示していただく必要が生まれ、これまで当たり前だった加入がそうではなくなってきました。「会費は払うが役はできない」といったご家庭も増えており、南区の中には PTA の存続自体が難しいと感じている学校もあります。

これは自治会の課題と重なり、共働きが一般化する中で「決められた曜日・時間に委員会へ参加する」ことが難しくなっている実情があります。保護者がフルタイムで働くご家庭も多く、どのように参加しやすい環境を整えるかが大きな課題です。

ICT の活用は、その一つ的手段になると感じています。茶山台小学校でも、PTA で LINE を活用しており、QR コードを読み込んで参加できる仕組みを導入しています。運動会後の片付けも、LINE で情報が流れると「手伝いに行きます」と保護者の方が来てくださることもあります。このような“緩やかなつながり方”は、役員としての負担を伴わない参加の形として一つの方向性になるのではないかと思います。

子どもも同様で、今年の 1 年生はちょうどコロナ禍の元年に生まれた年代であり、集団で活動する経験が少なく、人間関係を築くうえで難しさを抱えています。保護者世代もまた、人とのつながりが途切れた中で子育てに奮闘しており、地域活動に関わる心理的・時間的ハード

ルも大きいと思います。だからこそ、「自分にできる範囲で地域に貢献する」ということが考えやすくなるような仕組みが求められていると感じます。

最後に、自治推進課の皆さまには出前授業でもお世話になりました。4年生が大変興味を持って取り組んでおり、来年度はさらに内容を拡充しながら、学校でなければ体験できない学びにつなげられるよう検討しているところです。

#### 近藤座長

各小学校に「M&GREENs クラブ」のような、クラブ活動あるいは有志のボランティアサークルができれば、M&GREENs のプロモーション面でも大きな効果が期待できるのではないかと感じました。また、PTA の課題についても全国的に共通する深い問題であり、オンライン会議のみで運営している地域も増えてきていると伺っています。

#### 岸本構成員

M&GREENs のロゴマークが十分に浸透していないというご指摘もありましたが、教育機関に対して、ロゴマークを用いた資料や広報物の配布などは行われているのでしょうか。

#### 企画総務課長

現状では、教育機関に対して M&GREENs のロゴマークを活用した資料を配布するなどの積極的な働きかけには至っておりません。そういった点も踏まえて、どのように展開していくかを考えていく必要があると考えています。

#### 岸本構成員

せっかく南区としてロゴマークを作成し、これから浸透を図っていこうとしている状況ですので、まずはロゴマークに接する機会をつくることが重要ではないかと思います。教育機関を通じて、ロゴマークの入った資料やグッズなどを子どもたちに届けることで、自然と認知が広がるのではないかと思います。教育機関はこども園から大学まで幅広くありますので、南区内の様々な施設で活用いただければありがたいと思います。

また、評価シートに示されている目標値を見ると、ほとんどの項目で 100%以上を達成できる見込みになっており、逆に言えば目標がやや低く設定されているのではないかと感じます。達成して満足するのではなく、引き続き向上をめざして取り組んでいただきたいと思います。

さらに、ロゴマークは区役所内でもしっかり掲示されているか確認いただきたいと思います。見える場所に掲示がされていないようであれば、ぜひ貼っていただければと思います。青色防犯パトロール車にもロゴマークが掲示されていますので、そうした取組も踏まえながら、より一層認知の浸透を図っていただきたいです。私たちとしても、協力できることは積極的に取り組ん

でまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**近藤座長**

では、議題 3・4 に移りたいと思います。事務局から資料の説明をお願いします。

#### 4 議題（3）若者部会について

**企画総務課長**

<資料 5-1、5-2 について説明>

本資料は、若者部会において寄せられたご意見と、議論テーマを整理したものです。

若者の視点から、南区の魅力向上、健康で安心して暮らせる環境づくり、防災意識の向上について意見が寄せられており、概要をご紹介します。

まず、南区の魅力では、「自然が多く、落ち着いた環境で住みやすい」といった声が多く寄せられました。桜並木や公園など、日常の風景そのものが魅力として捉えられており、ビッグバンなどの施設があることで生活の充実度が高いという意見もありました。一方、魅力を効果的に発信するためには、Instagram や TikTok といった、若者が日常的に利用する SNS を活用することが必要だという指摘も多数ありました。写真に加えて動画の活用、影響力のある人を通じた発信を行うことも望ましいとの意見があり、さらには、スポーツや文化体験など若者が参加しやすいイベントを増やすことで、地域の活性化につながるのではないかと提案も出されています。

続いて、若者が心身ともに健やかに暮らせる環境づくりについてですが、公園や図書館といった、一人でも安心して過ごせる場所の必要性が挙げられました。健康に関する情報の入手先としては Instagram や YouTube などが多く、短い動画形式が受け入れられやすいことも示されています。また、睡眠不足やスマホ依存といった心身の不調に関する声も寄せられており、心の健康への関心も高いことがうかがえます。学校や家庭以外の居場所についても意見があり、カフェや静かに過ごせるスペースなど、気軽に立ち寄れる場所が必要との意見もありました。

最後に、若者の防災意識についてです。家族との避難場所の確認や非常食の準備といった基本的な備えはできているものの、外出先での避難場所を調べていない、家族が離れた際の集合方法を決めていないといった意見がありました。また、外国人家庭など災害時に情報が届きにくい層への支援が必要だとの意見もありました。

これらの意見を総合すると、南区が持つ豊かな自然や安心感を大切にしつつ、SNS を活用した情報発信の強化、若者が参加しやすいイベントや居場所の整備、さらに防災意識の向上が、南区の魅力向上と安全・安心な環境整備において必要であることが示されたと考え

ております。

#### 4 議題 (4) 防災の取組について

自治推進課課長

<資料 6-1、6-2、6-2 について説明>

南区の防災の取組についてご説明します。まず、資料 6-1「つながりあいコール」です。前回お示した案に対し、寄せられた意見や関係課からの修正点を反映し、今回完成しました。

南区には約 1 万 2,800 人の要支援者がおり、そのうち要支援者一覧表の登録者は 4,100 人です。登録者の約 55%は要介護 2 までの高齢者世帯です。震度 6 弱以上の地震発生時には、区災害対策本部が 24 時間以内に電話や訪問で安否確認を行うこととしていますが、一方向の確認では限界があることから、要支援者が自ら安否情報を発信できる仕組みとして「つながりあいコール」を活用していきます。令和 8 年度中に対象者へ送付し、自治連合協議会や自主防災会、民生委員・児童委員、地域包括支援センターなどを通じて周知を進めます。既に地域の会議で説明を行っており、安否情報を確実に区へ届ける仕組みとして評価をいただいています。今後は各校区で、このコールを用いた安否確認訓練の実施を促していきます。

次に、駅前滞留者対策について、資料 6-2 および 6-3 をご覧ください。震度 6 弱以上の地震で南海泉北線の運行に支障が生じた場合に、主要駅で発生する滞留者への避難誘導と支援を市と関係機関が連携して行うことを目的に、マニュアルを策定しました。基本は一時滞在施設への誘導とし、収容が難しい場合には近隣の指定避難所への誘導も行います。駅前滞留者対策は、南区と鉄道事業者だけでなく、事業所や商業施設、病院、学校などが、それぞれの利用者を守る行動を取ることが重要です。発災時には、一時的に施設内に留まることで駅前の混雑を防ぐ対策も必要です。また、その場に居合わせた人同士が支え合えるよう、共助の意識を高めることも求められます。

本マニュアルを起点として、事業者や関係施設への周知を進め、駅前滞留者対策を更に発展させていきます。

近藤座長

若者会議に参加してくれた高校生、大学生は、恐らく声をかければ一緒に何かやってくれそんな積極的な若者たちでしたので今後楽しみです。

では、駅前滞留者の話ですが、井出さん、いかがでしょうか。

井出構成員

駅前滞留者の件は現在も関係機関と連携しながら取組を進めている状況です。今後、運用に向けて事業者の皆さまとの調整も必要になると考えており、その点も引き続きすり合わせを行ってまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

近藤座長

ありがとうございます。現場での調整が非常に重要だと感じています。つながりあいコールについては期待が高まっていますが、大島様、この点についていかがでしょうか。

大島構成員

この取組には大いに期待しています。要支援者の方々への対応は、どのように連絡を取り、状況を把握するかが常に課題でしたが、対象者のほうから安否情報を発信していただける仕組みができれば、こちらが一軒一軒訪ねて回らなくても状況を確認できますので、大変助かります。無事であることが早く把握できれば、その分、ほかの支援が必要な方のところへ向かう時間も確保できます。

この仕組みがうまく機能し、地域でつながりが可視化されていけば、自治会の加入促進にもつながるのではないかと考えています。

木谷構成員

つながりあいコールは地域のつながりの形成に寄与する有意義な取組だと感じています。要支援者名簿は自治会や民生委員に情報提供されていますが、日頃の見守り活動と併せて、災害時にどう活かしていくかが重要です。最終的には、近所同士でお互いを自然に見守り合えることが最も望ましい姿だと思いますので、その実現に向けて取組を進めていただければと考えています。

近藤座長

鈴木委員、福祉の領域から見た場合、この取組は相当重なる部分があるのではないのでしょうか。どのように受け止めておられるか、ご意見を伺えればと思います。

鈴木構成員

要支援の方々には先ほどお話があったように、日頃から「どこへ連絡し、どのように避難行動につなげていくのか」という点が大きな課題です。特に一人では避難が難しい方や、情報が届きにくい方にとっては、こうした仕組みが“自助”の出発点として機能するのではないかと感じています。

今回のつながりあいコールは非常によくできた仕組みであり、福祉の観点から見ても大変重

要だと思っています。また、外国人の方への情報伝達に関する意見がありましたが、英語版を用意するだけでも、より広い層に活用していただける可能性が高まると思います。

さらに、視覚障害のある方など、文字での情報取得が難しい方に向けて、音声で内容を聞ける仕組みや録音版を用意することも検討いただければと考えています。一人暮らしで視覚障害のある方もおられますので、情報保障の観点からも、この制度を基盤として発展させていく価値があるのではないかと思います。

#### 近藤座長

つながりあいコールは「名前を書いて終わりではなく、実際に活用していくことが重要である」というご意見を複数いただき、大変意義深いご指摘だと感じています。

資料 5・6 に関して、若者の意見が多く示されていたことについて、一言コメントをいただける方がいらっしゃいましたらお願いしたいと思います。宮岡さん、いかがでしょうか。

#### 宮岡構成員

つながりあいコールについては、私自身も非常にうれしく感じています。

自治会では、無事の合図として掲示するための黄色いタオルを購入し、住民に呼びかけているところですが、この仕組みでは近隣同士の連絡先を書けるようになっており、安否確認の伝達方法としても大変有効だと感じています。黄色いタオルを活用する取組と重なる部分も多く、むしろ今後はこちらを活用したほうがよいのではないかと思うほどで、大変ありがたく受け止めています。

若者会議は、私も参加させていただきましたが、若者たちが自分たちで考えたアイデアを実際に形にできる機会をつくっていただきたいと感じました。自分たちの意見や企画が実現し、地域に貢献できる経験が、若者にとって「自分たちも社会を変えられる」という実感につながります。今後、若者が主体的に地域づくりへ関わるための場をぜひ広げていただければと思います。

#### 谷口構成員

つながりあいコールは、皆さんが述べられているように、とても良い取組だと感じています。前回拝見した際にも思いましたが、緊急時に「どうする」「誰に連絡する」と迷う場面で、必要な情報が一枚に整理されているのは大変心強く、実用性の高いものだと思います。

若者部会の意見も、若い世代が南区の豊かな自然を魅力として受け止めてくれていることが、とても嬉しく感じられました。その魅力をどのように発信するかは、私自身は SNS が得意ではない世代に入ってきていますが、Instagram や LINE などを利用して積極的に発信していく必要があると感じています。園としても、SNS 活用を検討してみたいと思います。

防災については私自身、高校生の頃はあまり意識が高くありませんでしたが、若い世代が「家族で避難場所を話し合う」「登校中に災害が起きた場合の行動を考える」といったことを真剣に受け止めている様子を拝見し、防災の意識が南区に根付き始めていると実感しました。

近藤座長

大学生と高校生でも SNS の使い方が大きく異なることがよく分かり、興味深く伺いました。高校生から「LINE はあまり使わない」という話が出たのは衝撃的でしたが、いまは LINE グループの管理よりも、Instagram のダイレクトメッセージでやり取りするほうが気軽に、自然なコミュニケーションの形になってきているのだと感じました。

岸本構成員

つながりあいコールを作成していただき、非常に良い仕組みだと感じています。大切なのは、せっかく良いものができた以上、それをどのように活用し、実際に生かしていくかという点だと思います。本日、皆さんから賛同の意見をいただいたことを踏まえ、これをいかに南区、さらには堺市全体へ広げていけるかが今後の鍵になると考えています。ロゴマークの場合と同様に、つながりあいコールについても広く浸透させ、効果的に活用いただけるよう取組を進めていってほしいと思います。

近藤座長

つながりあいコールは、対象となる要支援者の方だけでなく、小学生や中学生を対象とした防災教育の場でも紹介できる教材になると感じています。「おじいちゃん、おばあちゃんにも使ってもらえると良い」と子どもたちが理解し、家族に伝えられる仕組みとしても活用できるのではないかと期待しています。

それでは、その他の事項として次回の予定など事務局からご案内いただければと思います。

## 5 議題 (5) その他

企画総務課長

今後のスケジュールについてです。令和 8 年度の南区政策会議は、1 回目を 6 月頃、2 回目を 10 月から 11 月頃、3 回目を令和 9 年 3 月頃に開催する予定です。また、未来共創若者部会は学校の夏休み期間に合わせ、7 月から 8 月頃の開催を予定しております。

近藤座長

本日は、限られた中でも多くの貴重なご意見を頂戴することができました。今後の施策にし

っかりと反映していただければと思います。以上で本日の会議を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。

企画総務課 課長補佐

構成員の皆さま、長時間にわたりご議論いただき、誠にありがとうございました。これをもちまして、第3期堺市南区政策会議 第4回全体会を終了いたします。

本日は誠にありがとうございました。

閉会（19時00分）